

平成 29 年度 兵庫県立八鹿高等学校 入学式
式 辞

暖かな春の日差しを受け、円山川の桜も満開となっています。この良き日に、多数のご来賓・保護者の皆様のご臨席を賜り、平成二九年度兵庫県立八鹿高等学校入学式が、かくも盛大に挙行できますことは、新入生はもとより私たち教職員・在校生にとりまして大きな喜びでございます。心より感謝申し上げます。

ただ今、入学を許可しました二百名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、今日から兵庫県立八鹿高等学校七二期生としての高校生活が始まります。

本校は、明治三〇年に兵庫県簡易蚕業学校として創立され、本年度一二〇年を迎えた地域の伝統校です。多くの卒業生を輩出し、地元但馬、日本国内はもとより海外においても活躍されています。

「尋師訪友 克己勉励」これは本校の校訓です。校門を入ったところに石碑がありますので、ご覧ください。「尋師訪友」とは、学校生活のあらゆる場面で、師の門を叩いて、真理を尋ね求め、志を同じくする者が集うこの学舎で互いに切磋琢磨し、成長を求める精神のことです。「克己勉励」とは、ひるむ心に打ち克って自己を引き締め、人の歩む道を追求して勉学に励むことであり、校訓はその大切さを私たちに教えています。新入生の皆さんも、校訓の意味を理解し、社会に貢献できる人材となるよう努力してください。

この八鹿高校で、教師や友人とつくりあげる人間関係は、一生の財産となります。また、一生懸命に取り組むことにより人間として大きく成長します。しかし、成長すると、新たな壁が目の前に立ちはだかります。それをいかにして克服するのか。教師や友人に助けられながら、自らが努力することにより乗り越えることができます。

さて、入学に当たり三つのことをお願いします。

一つ目は、本校は“文武両道”、勉強と部活動の両立を目指して、教育を進めています。申すまでもなく、高校生の本分は勉強であり、しっかり学んで知識や技能・スキル、態度を身につけることが大切です。そして、部活動や学校行事等に積極的に参加し、様々な体験や教師・友人との関わりをとおして、豊かな心と社会性に富んだ心身ともにたくましい人間となってください。

二つ目は「生きる力」です。日本の社会は、情報化やグローバル化、少子化・高齢化、価値観の多様化など激しく変化し、世界情勢も不安定となりつつあり、複雑で予測しがたい状況が生まれています。そうした変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合い、関わる中で、自らの可能性を発揮し、よりよい社会の作り手となることが求められています。皆さんは、夢や志をもち、こ

の時代を力強く生き抜いていく力、「生きる力」を八鹿高校で身につけてください。

三つ目に、いのちや人権、自然を大切に作る心、他者を思いやる優しい心、社会のことを考えることができる心、「ありがとうございます」と感謝することができる心を養ってください。

人間は、一人で生きることができるものではなく、互いに助け合いながら生きています。助け合いの基本は、相手のことを思いやるという心です。他人の痛みを感じることや優しさを自分の中に育み、豊かな心を持った人間として成長してください。

高校生活3年間。振り返ってみれば、すぐに過ぎていきます。一日一日を大切にし、高い志を持ち、自分の夢や目標の達成を目指して高校生活を送ってください。

保護者の皆様をお願いします。本校の教育方針についてご理解いただくとともに、保護者の皆様と私たち教職員が心をひとつにして、お子様の成長にとって必要なことを共に考えながら子どもたちを育てて参りたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、お忙しい中、ご列席いただきましたご来賓の皆様、誠にありがとうございます。今後とも、本校の教育にご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新入生の皆様が、八鹿高校での充実した学校生活を送られることを祈念し、式辞といたします。

平成二九年四月十日

兵庫県立八鹿高等学校 校長 樋口 正和